

小学校国語（４年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことができている。 設問[5]一
- ◆ 目的や必要に応じて事例を挙げて書くことや、メモを基に書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことに課題が見られる。 設問[2]四五
- ◆ 叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読んだり、段落相互の関係を捉えて読んだりすることに課題が見られる。 設問[3]二、[4]一

■ 特に課題が見られた設問[2]五の誤答例(・)と解説

・(これからは、)もっとよい学級にするために、たくさんのことを協力していきたいです。 ・(これからは、)もっとよい学級にしたいです。	・(これからは、)マラソン大会に向けて協力して取り組み、毎月10さつ以上の本を読んでいきます。 ・(これからは、)マラソン大会に向け協力して取り組んで、校内音楽祭に向けても協力して取り組みます。	・(これからは、)いろいろなことにちょうせんしましょう。 ・(これからは、)いろいろな学年と協力し、全校のみんなとなかよくしたいです。
「メモ」の「終わり」の中から、1つを取り上げて書いていて、2つの内容を取り上げて書くという条件を満たしていない。	「メモ」の「終わり」の中から、まだ書いていない内容を取り上げて書くのではなく、すでに「中」に書いた内容を再度取り上げて書いている。	「メモ」を基に書くのではなく、自分の考えを書いている。

■ 設問[2]五の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

児童が、メモを基に書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができるようになるためには、以下の授業例のように、書こうとすることの中心に合うメモを選び、選んだメモを使って文章を書くような指導をすることが大切です。

メモの「終わり」に書いた内容 (田中さんのグループ) ・マラソン大会に向けて協力して取り組む。 ・校内音楽会に向けて協力して取り組む。 ・毎月10さつ以上の本を読む。 ・もっとよい学級にしたい。	校内音楽会のことと、もっとよい学級にしたいというメモを使って書くとよいと思います。
① 紹介する文章の「終わり」を書くために、準備した4つのメモの中から必要なメモを選ぶ。	準備した4つのメモのうち、マラソン大会のことと毎月10冊以上の本を読むことは、「中」で具体的に書いています。「終わり」には、これまでに書いていないことを書くとよいと思います。
田中さんのグループは、「終わり」にどのような内容を書こうとしていますか。	「終わり」には、これから学級のみんなで取り組んでいくことを書きたいので、校内音楽祭のことと、みんなで協力して取り組むことで、もっとよい学級にしたいということを書くと思います。
これから、学級のみんなで取り組んでいくことについて書こうとしています。	② 選んだ2つのメモを使って、紹介する文章の「終わり」を書く。
田中さんのグループは、紹介する文章の「終わり」には4つのメモを準備していますが、その中から必要なメモを選びましょう。	選んだ2つのメモを使って、「終わり」を書きます。どのように書くとよいですか。
田中さんのグループは、紹介する文章の「終わり」には4つのメモを準備していますが、その中から必要なメモを選びましょう。	2つのメモを1文にすると、「これからは、校内音楽会に向けて協力して取り組み、もっとよい学級にしたいです。」と書けそうです。

小学校国語（５年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 文末表現に注意して書くことができています。 設問2四
- ◆ グラフを基に分かったことを的確に書いたり、文と文とのつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書いたりすることに課題が見られる。 設問2三五
- ◆ 叙述を基に登場人物の心情を捉えたり、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて自分の考えを明確にしながらかいたりすることに課題が見られる。 設問3二、4三

■ 特に課題が見られた設問4三の誤答例(・)と解説

・地球で起きていることを知り、自分の暮らしを見直すこと(です。)(そのために、)一人一人が地球環境を守っていかなくてはならないのです。	・一人一人が地球環境を守っていかなくてはならない(です。)(そのために、)今の状況を知り、水をこまめに止めたり、電気をこまめに消したりするなどの取り組みをしていきます。	・物を増やさずに、使える物はまだ使うこと(です。)(そのために、)リサイクルをしたりごみを増やさないようにしたりしたらいいと思います。
筆者の考えを文中から抜き出して書くことはできているが、地球環境を守るために自分にできることを具体的に書くことができていない。	地球環境を守るために自分にできることを具体的に書くことはできているが、筆者の考えを文中から抜き出して書くことができていない。	地球環境を守るために自分にできることを具体的に書くことはできているが、筆者の考えを文中から抜き出して書くのではなく、自分の考えを書いている。

■ 設問4三の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

児童が、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて自分の考えを明確にしながらかいたりすることができるようにするためには、以下の授業例のように、筆者が伝えたいことを読み取り、自分の考えを書くような指導をすることが大切です。

結論	本論	序論
暮らしを見直す 今すぐ、自分の	環境を守る 一人一人が地球 現れた 人間への被害も 環境が一気に汚 れた 環境が 豊かで便利な暮 らしは…	始めた 地球環境が壊れ

① 筆者が最も伝えたいことを捉える。

説明文は、どのような構成になっていますか。また、筆者が最も伝えたいことは、どのようなことですか。

序論・本論・結論という構成になっています。

筆者が最も伝えたいことは、結論に書かれている「地球で起きていることを知り、自分の暮らしを見直すこと。それが、私たちが今すぐやらなければならないこと」だと思います。

② 筆者の考えに対する自分の考えを書く。

筆者の考えについて、自分の考えを書きましょう。地球で起きていることを知ること、自分の暮らしを見直すことの2つのことについて自分にできることを考えてみましょう。

地球で起きているゴミ問題について知するために、新聞やテレビのニュースに関心を持ちたいと思います。自分にできることは、ごみを増やさないように、使える物は、最後まで使うことです。

環境問題を知るために、地球環境について書かれている本を読みたいと思います。自分の暮らしを見直すために、家族と話したいと思います。ぼくは、テレビをつけっぱなしにしていることがよくあるので、電気を無駄遣いしないように自分の部屋を出るときには電気を消すようにします。

小学校国語（6年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 事例を挙げながら自分の考えを話したり、互いの立場や意図を明確にしながら話し合ったりすることができている。 設問1 三四
- ◇ 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすることができている。 設問2 二
- ◆ 司会の役割を考えて話し合いを進めることや、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題が見られる。 設問1 一五
- ◆ 叙述を基に登場人物の心情の変化を捉えたり、文章の内容を的確に捉えたりすることに課題が見られる。 設問3 三、4 二

■ 特に課題が見られた設問3の誤答例(・)と解説

・「ぼく」も、きつねと同じように、「ぼく」のお母さんをいつでも見ていられるようにと思った(からだと思うよ。) ・ぼくは、きつねの母親の話を聞いて、自分も独りぼっちでさみしかった(からだと思うよ。)	・「ぼく」は、きつねが指で作った窓の中に、母ぎつねが見えた(からだと思うよ。) ・ひし形の窓を見て「ぼくもそんな窓ほしいなあ」と言ったら、きつねはうれしくてたまらないという顔をした(からだと思うよ。)	・「ぼく」も独りぼっちだったから、せめて窓の中だけでも友達をつくりたかった(からだと思うよ。) ・きつねが作った窓を見て、「ぼく」はきつねに指を染められるのはぜったいにいやだと思っていた(からだと思うよ。)
「ぼく」の心情の変化や変化した理由を捉えることはできているが、「どういふ窓を見て」そういう気持ちになったのかを捉えることができていない。	「どういふ窓を見て」そういう気持ちになったのかを捉えることはできているが、ぼくの心情がどのように変化したのかを捉えることができていない。	ぼくの心情に関わる表現を捉えることはできているが、文章の内容を正しく読み取ることができていない。

■ 設問3の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

児童が、叙述を基に登場人物の心情の変化を捉えることができるようになるためには、以下の授業例のように、心情が想像できる表現を探し、心情や心情が変化した理由について考えるような指導をすることが大切です。

指なんか染められてたまかい。」

ぼくもそんな窓がほしいなあ。」

ぼくも見たいな

ぼくは、あんまりびっくりして、

実は、ぼくも独りぼっち。

① 登場人物の心情を捉える。

「ぼく」の心情が想像できる表現は、どれですか。

行動や会話、様子を表す表現から分かります。

そこから、どのような心情だと想像できますか。

物語の前半では、むっとして「指なんか染められてたまかい。」と言っているから、きつねに指を染められるのは絶対に嫌だと思っていたと思います。

物語の後半では、「ぼくも、そんな窓がほしいなあ。」と言って、テーブルの上に両手を置いているから、「ぼく」はきつねに指を染めてもらいたいと思っています。

② 登場人物の心情の変化とその理由について、叙述を基に考える。

「ぼく」の心情は、どのような理由でどう変化したのかについてグループで話し合ってみましょう。

きつねが作った窓を見た後、きつねの話にうんうんとうなずいているから、きつねに対する心情が変化してきていると思います。

母ぎつねをいつでも見られるからさみしくなくなったというきつねの話に感激したのは、「ぼく」も独りぼっちだったからだだと思います。だから、「ぼくも、そんな窓がほしいなあ。」と言っていると思います。

「ぼく」は、物語の前半では指を染めたくないと考えていたのに、後半ではきつねに指を染めてもらっています。「ぼく」の心情が変化したのは、独りぼっちだった「ぼく」が、きつねの窓を見て、自分も窓を作って、会いたいと思っている人を見てみたいと思ったからだだと思います。

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,069	62.6	3.6	82.1	62.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	話す・聞く	5	67.8	1.9	80.0	60.0	
	書く	5	59.3	4.2	81.0	61.0	▼
	読む	5	49.3	3.0	81.0	61.0	▼
	漢字の読み	3	93.3	2.4	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	69.9	4.0	85.0	65.0	
	語句に関する知識	5	51.1	5.9	83.0	63.0	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	67.8	1.9	80.0	60.0	
	②書く	5	59.3	4.2	81.0	61.0	▼
	③読む	5	49.3	3.0	81.0	61.0	▼
	④知識・理解・技能	11	67.8	4.4	84.1	64.1	
問題形式	選択式	15	57.6	2.3	82.3	62.3	▼
	短答式	9	73.9	5.1	84.4	64.4	
	記述式	2	49.0	7.3	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	2	49.0	7.3	70.0	50.0	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	
1	一	自分の考えと比較しながら聞く	○						○			○			71.6	0.6	85	65	
1	二	司会の役割を理解し、進行に沿って話合いを進める	○						○			○			73.6	0.6	85	65	
1	三	互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理する	○						○			○			70.3	1.1	80	60	
1	四	自分の感想や意見を述べたり、分からない点を質問したりする	○						○			○			64.2	1.0	80	60	
1	五	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○						○				○	○	59.2	6.3	70	50	
2	一	相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる	○							○		○			57.1	0.9	85	65	▼
2	二	段落相互の関係に注意して文章を構成する	○							○		○			72.1	1.4	85	65	
2	三 1	敬体と常体の違いに注意しながら書く	○							○			○		69.3	7.5	85	65	
2	三 2 ア	文脈に即して漢字を正しく書く「遊んで」					○					○			85.5	2.5	85	65	◎
2	三 2 イ	文脈に即して漢字を正しく書く「寒い」					○					○			49.4	3.8	85	65	▼
2	三 2 ウ	文脈に即して漢字を正しく書く「深め」					○					○			75.0	5.7	85	65	
2	四	目的や必要に応じて、事例を挙げて書く	○							○		○			58.9	2.7	80	60	▼
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く	○							○			○	○	38.8	8.4	70	50	▼
3	一	登場人物の会話に即して読む		○							○	○			63.2	1.6	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式			十分達成	おおむね達成	
3	二	叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む		○						○		○			45.7	1.9	80	60	▼
4	一	段落相互の関係を捉えて読む		○						○		○			40.4	3.4	80	60	▼
4	二	文章の要点に注意しながら読み、要約する		○						○		○			42.5	4.0	80	60	▼
4	三	中心となる語や文を捉える		○						○		○			54.9	3.9	80	60	▼
5	一 1	文脈に即して漢字を正しく読む「倉庫」			○						○		○		93.1	2.3	85	65	◎
5	一 2	文脈に即して漢字を正しく読む「申しこむ」			○						○		○		91.7	2.5	85	65	◎
5	一 3	文脈に即して漢字を正しく読む「種類」			○						○		○		95.1	2.3	85	65	◎
5	二 1	主語と述語の関係を理解する					○				○	○			47.2	2.9	85	65	▼
5	二 2	主語と述語の関係を理解する					○				○	○			64.9	3.3	85	65	▼
5	三	修飾と被修飾の関係を理解する					○				○	○			37.4	4.4	80	60	▼
5	四 1	ローマ字を正しく書く「mado」					○				○		○		28.7	10.8	80	60	▼
5	四 2	ローマ字を正しく読む「かえる」					○				○		○		77.6	8.2	85	65	

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,426	65.0	3.4	82.4	62.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	話す・聞く	5	68.3	0.6	82.0	62.0	
	書く	5	55.0	5.7	81.0	61.0	▼
	読む	5	50.1	3.4	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	3	85.7	3.2	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	79.3	3.1	85.0	65.0	
	語句に関する知識	6	65.7	4.1	83.3	63.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	68.3	0.6	82.0	62.0	
	②書く	5	55.0	5.7	81.0	61.0	▼
	③読む	5	50.1	3.4	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	12	74.1	3.6	84.2	64.2	
問題形式	選択式	13	63.0	1.5	83.1	63.1	▼
	短答式	11	71.9	5.2	84.5	64.5	
	記述式	3	48.5	5.1	71.7	51.7	▼
活用	「活用」に関する問題	3	48.5	5.1	71.7	51.7	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	
1	一	話し手の意図を捉え、自分の意見と比べながら聞く	○						○			○			80.6	0.2	85	65	
1	二	事例を挙げて明確に話す	○						○			○			60.3	0.4	80	60	
1	三	意図を明確にし、話合いを計画的に進める	○						○			○			71.7	0.3	85	65	
1	四	話し手の意図を捉えながら、話の展開に沿って質問する	○						○			○			72.1	0.5	85	65	
1	五	自分の立場を明確にして、理由を挙げながら話す	○						○				○	○	56.8	1.5	75	55	
2	一	情報を分かりやすく伝えるために、工夫して書く	○							○		○			56.1	0.3	85	65	▼
2	二	目的や意図に応じて、まとめて書く	○							○			○	○	62.6	3.8	70	50	
2	三	グラフを基に、分かったことを的確に書く	○							○		○			34.3	7.6	80	60	▼
2	四	文末表現に注意して書く	○							○		○			87.9	4.7	85	65	◎
2	五	文と文とのつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	○							○		○			34.1	12.1	85	65	▼
2	六 1	文脈に即して漢字を正しく書く「好き」					○					○			95.5	2.4	85	65	◎
2	六 2	文脈に即して漢字を正しく書く「種類」					○					○			82.2	3.8	85	65	
2	六 3	文脈に即して漢字を正しく書く「初めて」					○					○			60.1	3.2	85	65	▼
3	一	登場人物の人物像がよく分かるように音読する		○								○			58.6	1.1	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式			十分達成	おおむね達成	
3	二	叙述を基に、登場人物の心情を捉える		○						○		○			46.9	1.3	80	60	▼
4	一	文章の内容を的確に押さえる		○						○		○			61.2	2.3	85	65	▼
4	二	中心となる語を捉える		○						○		○			57.4	2.3	80	60	▼
4	三	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて、自分の考えを明確にしながら読む		○						○				○	26.2	9.9	70	50	▼
5	一 1	文脈に即して漢字を正しく読む「規則」		○						○		○			88.3	3.3	85	65	◎
5	一 2	文脈に即して漢字を正しく読む「努める」		○						○		○			73.8	4.4	85	65	
5	一 3	文脈に即して漢字を正しく読む「判断」		○						○		○			95.1	2.0	85	65	◎
5	二 1	修飾と被修飾との関係を理解する					○			○		○			78.5	2.2	80	60	
5	二 2	修飾と被修飾との関係を理解する					○			○		○			16.1	2.3	80	60	▼
5	三 1	国語辞典の使い方について理解する					○			○		○			70.1	7.1	85	65	
5	三 2	国語辞典の使い方について理解する					○			○		○			69.7	6.4	85	65	
5	四 1	慣用句の意味を知る（風の便り）					○			○		○			81.4	3.2	85	65	
5	四 2	慣用句の意味を知る（はめを外す）					○			○		○			78.3	3.3	85	65	

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,351	74.3	1.2	81.8	61.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	話す・聞く	5	71.3	0.6	80.0	60.0	
	書く	5	75.7	1.1	80.0	60.0	
	読む	5	58.8	2.2	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	3	94.5	1.0	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	88.5	1.3	85.0	65.0	◎
	語句に関する知識	4	69.8	1.2	83.8	63.8	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.3	0.6	80.0	60.0	
	②書く	5	75.7	1.1	80.0	60.0	
	③読む	5	58.8	2.2	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	10	82.8	1.2	84.5	64.5	
問題形式	選択式	15	72.4	0.6	83.0	63.0	
	短答式	7	90.0	1.3	84.3	64.3	◎
	記述式	3	47.4	4.0	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	47.4	4.0	70.0	50.0	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
			話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	
1	一	司会の役割を考えて話し合いを進める	○					○				○			40.8	0.3	85	65	▼
1	二	自分の考えと比べ、共通点や相違点などを整理し、自分の考えをまとめる	○					○				○			83.9	0.1	80	60	◎
1	三	事例を挙げながら自分の考えを話す	○					○				○			95.0	0.2	80	60	◎
1	四	互いの立場や意図を明確にしながら話し合う	○					○				○			92.5	0.2	85	65	◎
1	五	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	○					○					○	○	44.4	1.9	70	50	▼
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える	○						○			○			54.1	0.2	80	60	▼
2	二	目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする	○						○			○			96.4	0.1	85	65	◎
2	三	目的や必要に応じて事例を挙げて書く	○						○			○			84.1	0.2	85	65	
2	四	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く	○						○				○	○	62.9	2.9	70	50	
2	五1ア	文脈に即して漢字を正しく書く「夢」				○					○	○			94.0	0.9	85	65	◎
2	五1イ	文脈に即して漢字を正しく書く「準備」				○					○	○			78.4	1.6	85	65	
2	五1ウ	文脈に即して漢字を正しく書く「増やして」				○					○	○			93.1	1.5	85	65	◎
2	五2	敬体と常体の違いに注意しながら書く	○						○			○			80.9	2.1	80	60	◎
3	一	登場人物の心情や場面についての描写を捉える		○						○		○			70.2	0.5	85	65	

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等	評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
				話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く				②書く	③読む		④知識・理解・技能
3	二	叙述を基に、登場人物の心情を捉える			○					○			83.1	0.7	80	60	◎
3	三	叙述を基に、登場人物の心情の変化を捉える			○						○	○	34.9	7.1	70	50	▼
4	一	表現の工夫を捉える			○					○			58.0	1.2	85	65	▼
4	二	文章の内容を的確に捉える			○					○			48.2	1.3	80	60	▼
5	一 1	文脈に即して漢字を正しく読む「往復」				○					○		92.8	0.9	85	65	◎
5	一 2	文脈に即して漢字を正しく読む「営む」				○					○		92.0	1.4	85	65	◎
5	一 3	文脈に即して漢字を正しく読む「降りる」				○					○		98.7	0.7	85	65	◎
5	二	敬語の使い方を理解する					○				○		45.5	0.9	80	60	▼
5	三 1	接続語の使い方を理解する					○				○		88.4	1.1	85	65	◎
5	三 2	接続語の使い方を理解する					○				○		86.1	1.2	85	65	◎
5	四	漢字四字の熟語の構成を理解する					○				○		59.4	1.5	85	65	▼